©朝日新聞社 2012年　46767号（日刊）

2012年（平成24年）
1月24日
火曜日

朝日新聞

天気 6 9 12 15 18 21 0時
福岡 20 4
北九州 20 4
山口 20 3
大分 10 5
佐賀 20 4
鹿児島 30 7
那覇 60 16
大阪 20 5
東京 10 6

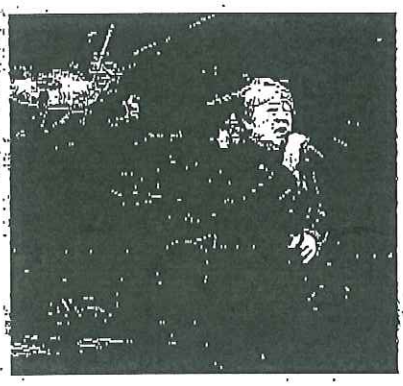
朝日新聞西部本社　発行所：〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
電話：093-563-1131 www.asahi.com
福岡本部　〒812-8577

福岡の「ちやこ」さんとおっしゃる
ファンの方からお送りいただきました。

「評」 音楽　沢田研二 福岡コンサート

解散40年 生き様加え発信

1960年代末のGSの王者が帰って来た。瞳みのる、森本太郎、岸部一徳が沢田研二を囲んでトする「沢田研二LIVE 2011～2012」だ。ザ・タイガースが解散したのは71年1月。沢田がジュリーとして一世を風靡し、森本が音楽活動を継続、岸部が名脇役として定評を得る一方で、過去と決別し、学究と教育に生きていた瞳。「老虎」たちとの再会に、聴衆は胸を熱くした（7日、福岡市民会館）。


藤本彦さん撮影

デビュー前のファニーズ時代にコンテストで優勝した思い出の曲「ミスター・ムーンライト」に始まり、全24曲中18曲が「モナリザの微笑」「君だけに愛を」などのタイガースナンバー。しかし沢田のパフォーマンスは天下一品で、まさに沢田研二ライブである。

アイドルの復帰も音楽的価値がなくては論外だ。演奏が単なるナツメロ大会に終わらなかったのは近年のローリングストーンズを想起させる慶事。ライブの成功は「鉄人バンド」の的確なサポート抜きには考えられないが、それでも「タイガースのライブ」として成立しているのは、オリジナルメンバーによるリズムセクションに負うところが大きい。瞳の躍動感あふれるドラミングと岸部のグルーブ感のあるベースに接すると、長期のブランクがうそのようだ。

瞳は、自著で「タイガースの名前に頼った再結成では意味がない。各メンバーのその後の生き様を加えて未来に発信すべきだ」と述べている。かつてとは異なり、名脇役がおり、中国文学者がいるという異色のグループが現在の「ほぼタイガース」である。

瞳は5月19日、福岡市のイムズホールで「タイガースと中国文化」を題材にトークライブを催す。そこでは彼の、教育者、研究者としての40年間に接したい。

（池内秀己・音楽評論家）

瞳のトークライブの問い合わせはBEA（092・712・4221）へ。